

ネパールとの出会い

学校所在府県：大阪府

学校名：大阪教育大学附属池田小学校

名前：仲井勝巳（全科）

実践教科：学活・理科・総合的な学習の時間
・クラブ活動

指導時数：5時間(学活・理科・総合的な学習の時間)+2時間(クラブ活動)

対象学年：小学4年生(33名)
小学4～6年生サイエンスクラブ(19名)

その他：地域社会における写真展の実施

1. 教師海外研修を通して感じたこと

ネパールの文化や自然、人々の暮らしを知りたいという気持ちが強かった。私が小学3年生の時に阪神淡路大震災があり、大きな揺れでタンスや机が倒れてきて危険な目にあった。その経験もあり、東日本大震災や熊本地震後、被災地に行き何かできないかと考えて行動してきた。活動を行う上で、現実を知ることが大切だと思ったからだ。昨年度、ネパールで大きな地震が発生し、私は大変気になっていた。今回の研修に応募し、ネパールへ行くことと決意した。現地は、地震後どうなっているのか。現地に行っても何ができるのか。帰国後、勤務校に戻って何ができるのか。考えることは多々あった。その中で、率直に現地の事実を伝えることが大切であると感じた。私自身が感じ、思ったことを伝えることが開発教育につながると判断した。

事前研修において、現地で被災された学校で防災教育を考えることがあった。しかし、どのような被害があり、防災に対してどれほど取り組まれてきたのかをよく把握できていなかった。その中で考案は、大変難しくあった。しかし、この研修で小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の先生方、そしてJICAスタッフの方々と関わる中で、現地の状況に合わせて考案していく方向に決めた。その結果、被災された学校で防災体操を考えることができた。そして、現地の教員や隊員、子ども達へと、手順を踏んでいった。特に印象に残ったことは、東日本大震災からの復興支援の歌である『花は咲く』を、ネパール語で歌った時に、現地の方々が一緒に歌ってくれたことである。私は歌を通して、理解し合うという気持ちを大変感じる事ができた。そのことが私の記憶に深く刻み込まれている。そして、防災意識を高められるように、現地の方々と協力し合って取り組むことができたのではないと思う。この経験は、私の宝物になった。『理解し合う姿勢』は、国際理解教育を行う上でとても大切なことだと感じた。この経験を、日本の教育現場等で活かしたいと強く思うようになった。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

ネパールの文化や自然、人々の生活を知ること、国際的な理解をしようとする態度を育てることを目的としている。私自身、これまでにカンボジアの村での小学校建設支援活動、東日本大震災後の復興支援活動に参加することによって、国際的な視点や支援活動について語り、児童が考えられるような実践に取り組んできた背景がある。ネパールでは、昨年度に大きな地震が起こり、その爪痕は未だに残っている。現地の取り組みや活動を知ることによって、勤務校の児童が海外の事情を理解して、そして防災意識を高められるようにつとめた。勤務校の児童は、知的な好奇心が大変高い。興味のあるものであれば、図書館等を活用して、意欲的に調べ自分なりに追及している児童もいる。よって、児童の実態に合わせて、自身の経験を活かし現地の写真や動画を活用して授業を展開した。この実践は、クラブ活動においても行った。また、撮影した写真を地域社会で写真展を行うことによって、勤務校のみでなく広く社会へと国際理解の視点で寄与できるように取り組んだ。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
4年生において実施		
1時限目 学活 ネパールを知る① *ネパールに関する基礎知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ●ネパールの自然・文化・歴史・地震を知る。 ●地震に対する防災意識を高める。 ●日本のことを紹介するにはどうするかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界地図 ●ネパールの地図 ●ワークシート ●パワーポイント
教師海外研修		
2時限目 学活 ネパールを知る② *ネパールに関する知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ●夏休み後の自由研究を紹介する。 ●ネパールの写真や現地から持ち帰ったものを見て、現地の様子を知る。 ●ネパールの避難訓練について知り、自分達の避難訓練について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真 ●ネパール岩塩 ●ワークシート ●パワーポイント

3 時限目 学活 ネパールを知る③ *ネパールに関する知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ●ネパールの写真や現地から持ち帰ったものを見て、現地の様子をより深く知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真 ●ネパールの笛 ●ワークシート ●パワーポイント
4 時限目 理科 ネパールを知る④ *コーヒー豆の観察 フェアトレードの視点を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ●ネパールの一村一品に着目し、現地のコーヒー豆に興味を持ち、日本で転売されているフェアトレード豆を観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真・ネパールのコーヒー豆・日本のフェアトレード豆 ●ワークシート ●パワーポイント
5 時限目 総合的な学習の時間 *写真で学ぼう！地球の食卓	<ul style="list-style-type: none"> ●ネパールの食卓を知り、世界の国々の食卓を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真 ●世界地図 ●ワークシート
小学4～6年生のサイエンスクラブにおいて実施		
1 時限目 *自由研究の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ●夏休み後の自由研究を紹介 ●ネパールの岩塩を紹介する。 対象学年は、4年生8名、5年生5名、6年生6名である。	<ul style="list-style-type: none"> ●写真・食塩 ●ネパール岩塩
2 時限目 *ネパールの岩塩を調べよう。	<ul style="list-style-type: none"> ●ネパールの岩塩の観察 ●食卓の食塩と比較して違いを探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真・食塩 ●ネパール岩塩 ●顕微鏡

3. 授業の詳細

1 時限目：学活「ネパールを知る①」

ねらい…ネパールに関する基礎知識を学び、日本文化の紹介方法を考える。

◆内容◆

- ① ネパールの自然・文化・歴史・地震について知る。
- ② 地震に対する安全意識を高める。
- ③ 折り紙を折って、日本の文化を伝えようとする気持ちを育てる。

！ココがポイント

ネパールに行く前に、現地の自然・文化・歴史・地震が分かる写真を活用し、興味関心を持たせる。さらに、日本の文化でもある折り紙を使って、ネパールとのつながりの意識を高めることができるように取り組んだ。



「ネパールの人に折り紙を知ってもらおう！」
(大阪の小学校で折り紙)

児童の反応

- ▶ ダルバードというプレートのご飯について「食べてみたい」という反応があった。地震被害の写真を掲示すると、被害状況を見て深刻そうな顔を見せた。その後、折り紙で折り鶴等を作る作業に集中して取り組んでいた。

◆所感◆ 現地に行く前に、児童にネパールの文化や自然、地震の被害について興味関心を持たせることができたと思う。また折り紙を通して現地との交流を意識させ、日本の文化を紹介しようとする姿勢を感じた。

2 時限目：学活「ネパールを知る②」

ねらい…ネパールに関する知識を学ぶ。

◆内容◆

- ① 夏休み後の自由研究を紹介する。
- ② ネパールの写真や持ち帰ったものを見て、現地の様子を知る。
- ③ ネパールの避難訓練について知り、自分達の避難訓練について考える。

！ココがポイント

帰国して、自身も夏休みの宿題としてネパールで活動したことを報告することで、児童と同じように学んできた姿勢を示し、自由研究として紹介し合うように取り組んだ。



『校庭に避難しよう！』
(地震避難訓練の様子)



『素敵な折り紙。ありがとう!!!』
(ネパールの小学校で折り紙を渡すと...)

児童の反応

▶ 折り紙を現地の小学校に持っていき、交流したことを伝えると大変興味を示した。また、ネパール岩塩を手にとって観察していた。写真を通して、現地の小学校の様子や自然・文化について理解しようとしていた。

児童の感想①

▶ 何で岩塩は色がちがうのか。いろいろな建物がたおれそう。ネパールの世界いさんがこわれたから、募金活動があったらお金を入れようと思います。ネパールはふっきゅうしているところと、していないところがある。

◆所感◆ 被災された小学校の地震避難訓練の様子に大変興味を示していた。そして、折り紙を伝えると、とても興味深そうに見ていた。自分達の日本での避難方法について振り返っていた。世界遺産であるボダナートの被災状況等を見て、地震の悲惨さを学んでいる様子だった。また、現地の塩を紹介すると、手で触るなどしてよく観察していた。

3 時限目：学活「ネパールを知る③」

ねらい…ネパールに関する知識を学ぶ。

◆内容◆

- ① ネパールの写真や現地から持ち帰ったものを見て、現地の様子をより深く知る。

！ココがポイント

ネパールの笛を吹くことによって、ネパールの文化を伝えることができた。ネパールの食文化や身なり、停電などの実態を日本と比較することによって、理解が深まるように取り組んだ。



『素敵な横笛の演奏』
(世界遺産ダルバール広場で)



『ダルバート』
(ネパールのカレー料理・家庭料理)

児童の反応

▶ ネパールの笛をはじめのほうは、なかなか吹けなかったが、何とか音色を出してみると、児童から大きな拍手が出た。とても興味を持ってもらったと感じた。

児童の感想

▶ ネパールの笛はふくのがむずかしそう。音楽は陽気だった。手でごはんを食べるのがびっくりしました。日本とちがう服でめずらしい。電気などが思ったよりすぐれていたことや現地の人々の計画性におどろいた。ティカはどうしてああいうもようにしているのかきもんに思った。モモはぎょうざににている。とても交通整理がきびしいと思った。シンズリーロードの道路があることを知った。

◆所感◆ ネパールの笛に大変興味を示した。自身が吹くには大変難しかったが、音色を聞いた児童は大変嬉しい表情を見せたことが記憶に残っている。子ども達を現地に連れていくことはできないが、実演することによって、さらに興味や関心を持たせることができると改めて感じた。

4時限目：理科 「コーヒー豆を観察しよう！」

ねらい…日本で販売されている世界のコーヒー豆を形や観察に着目して観察する。

◆内容◆

- ① ネパールの一村一品について知る。
- ② 日本で販売されているフェアトレードのコーヒー豆があることを知る。
- ③ 現地のコーヒー豆に興味を持ち、日本で販売されているフェアトレードの豆を観察する。



『コーヒー豆の観察』
(一村一品・フェアトレードを学びながら)

！ココがポイント

身近なものが世界の国と関わりがあることを気づかせる。実際にコーヒー豆を児童の前で挽いて淹れることによって、香りを確認し興味関心をもって観察できるように取り組んだ。

児童の反応

▶ コーヒー豆を演示実験で挽いてみると、「自分もしたい!」と言ってくる子が多かったので、全員に挽く体験をさせた。授業が終わってからも、休み時間にコーヒー豆を挽いて香り確かめている児童がたくさんいた。

◆所感◆ 実際に掲示したネパールのコーヒー豆はすでに粉になっていたもので、日本のフェアトレードで販売されているコーヒー豆に着目し観察させると、アフリカなどの他の国にもそのような商品があることを知り、興味を示す姿勢を感じられた。

5時限目：総合的な学習の時間 「写真で学ぼう！地球の食卓」

ねらい…ネパールの食文化を知り、世界の国々の食卓に興味を持つ。

◆内容◆

- ① ネパールの村にホームステイした経験を伝える。
- ② 世界の国々の食卓に興味を持つ。

！ココがポイント

既習事項で、子ども達はネパールの家庭料理であるダルバートを知っている。さらに、自身のホームステイした経験を伝えることによって、ネパールの食生活を知る。そして、他の国の食生活についても興味関心を向け、写真を通して広く学ぶことができるように取り組んだ。



『世界の食卓はどうなっているんだろう？』
(世界の食卓の写真を活用して)

児童の反応

- ▶ 世界各地の食卓の写真に大変興味を示していた。そして、写真からどの国かを調べる際に、何を食べているのか、何を主食にしているのかを話し合っ、取り組む姿勢があった。

◆所感◆ ネパールをはじめ、他の国に写真を活用すると、子ども達の反応は大変良かった。「他の国も知りたい!」「この写真も先生が撮りに行ったの?」というように、興味関心は高くなり、他の国の食文化を知る授業となったと感じる。

クラブ活動 1時限目：「サイエンスクラブ・自由研究を紹介しよう!」

- ねらい…①夏休みの自由研究を紹介しよう。
②ネパールの自然や文化を知ろう。

◆内容◆

- ① 夏休みの自由研究を紹介し、興味を持つ。
- ② ネパールの岩塩を紹介する。

「ヒマラヤ岩塩はどうだい?」
(現地の市場で)



!ココがポイント

高学年が主体となるクラブ活動である。児童の夏休みの自由研究の発表後、ネパールの岩塩（ヒマラヤ岩塩）を紹介し、自然や文化に興味関心を持たせて取り組んだ。

児童の反応

- ▶ 各自が行ってきた自由研究の発表をよく聞いていた。ネパールの岩塩（ヒマラヤ岩塩）を見ると、大変興味を持ち、日本で使用される食塩の違いについて予想していた。ネパールの文化、地震被害の様子などの写真を通して伝えると、大変興味を示した。

◆所感◆ 自由研究の交流では、興味を持って発表を聞き、内容の面白いところは質問をするなどして、活動に取り組んでいた。そして、自身のネパールでの防災教育などの活動や、現地の自然や文化を紹介すると、児童は大変興味を持っていた。授業の終盤に、ネパールの岩塩を次時の調べることを伝えると、これもまた強く興味を示し楽しそうにしていた。

クラブ活動 2時限目：「サイエンスクラブ・ヒマラヤ岩塩を調べよう」

- ねらい…日本の食塩とネパールのヒマラヤ岩塩を比べてみよう!

◆内容◆

- ① 顕微鏡を使って、日本の食塩とネパールのヒマラヤ岩塩を比べて観察する。

!ココがポイント

ヒマラヤ岩塩はピンク色がかっている。その結果、まず視覚の情報で、日本の食塩とは違うことに気づかせる。そして、顕微鏡で構造はどうなっているのかを問いつけることによって、さらに2つの違いを比べようと観察に取り組むことができる。



「ネパールの塩はどうなっているんだろう?」
(ヒマラヤ岩塩を活用して)

児童の反応

- ▶ 顕微鏡でヒマラヤ岩塩をのぞくと、歓声が上がった。塩の結晶である。その構造をとらえたり、中の不純物に気づいたりする児童もいた。ヒマラヤ岩塩を観察する前に、ネパールの写真を掲示して、自身の経験を前回よりも詳しく伝えると、これもまた興味関心を持って聞いていた。

◆所感◆ クラブ活動では、小学4～6年生の児童がいる。サイエンスクラブのヒマラヤ岩塩を活用することによって、より多くの児童にネパールの自然や文化を伝える機会を作ることができたと思う。

その他の実践

■写真展 『ネパールとの出会い』

『ネパールとの出会い』
(大阪のカフェで写真展)

■目的と内容

地域社会にネパールの文化や自然を広く伝えることを目的とし、大阪にある店舗で写真展『ネパールとの出会い』を実施した。

■場所と期間

- ①大阪心斎橋，旅人の家，2016年11月1日～18日
- ②大阪梅田中崎町，旅カフェ黄色い家，2016年12月3日～30日

■所感

写真展に参加された方は、「異国の文化を知って楽しい!」「心がほっこりしました。きれいな瞳の子供を見ていると、救われる気持ちになります。」等の内容をコメントノートに記していた。学校現場だけでなく、広く地域社会に発信できるように、取り組むことができたと思う。



4. 成果

今回の実践では、勤務校や地域社会で行うことができた。学活や理科、そして総合的な学習の時間、クラブ活動で考案し、開発教育を実践することができたと思う。参加者の先生方、JICAスタッフの方々、現地の方々と一緒に取り組むことができたからこそ、帰国してから様々な場所で実践することができたのである。子ども達にどう還元するかを考えた時、研修で山中先生が「教師自身が変容した経験がないと、子ども達の変容を期待できないものです。」という言葉があった。前述でも触れたが、現地の方々と一緒に『花は咲く』を歌ったことが、鮮明に私の記憶にある。私たちのことを理解し迎え入れてくれたことを感じたからである。それは、私は思ってもいなかった感情を持ったのである。大きな変容とまではいかないが、『理解し合う姿勢』を改めて、私は深く学んだのである。私はネパールに行つて、そのことを実感した。とても有意義であった。学ぶことがたくさんあった。そのような経験を子ども達に伝えようと、「私も行ってみたい!」という声を聞いた。私自身の経験や考えを率直に伝えることで、子ども達の理解や意欲にもつながったのではないかと感じる。そして、子ども達が今回のネパールの授業を通して、たくさんの国を知ろうとするきっかけになったのではないかとと思う。

今回の実践を、日本教科教育学会において次のテーマとして発表した。「ネパールに関する国際理解教育の考察～ネパールや日本の実践に着目して～」、2016年10月23日、日本教科教育学会第42回全国大会、ポスター発表、鳴門教育大学、論文集P188-189である。

5. 課題

ネパールの研修では、たくさんの方々のことを経験したり学んだりした。数多くある資料から、授業でどのように活用するかを考えるのに苦労した。しかし、理科の授業で概念獲得に寄与するような紹介の仕方、総合的な学習の時間で折り紙を折る活動、そしてクラブ活動においても教育活動に合わせて実施できることが分かった。教師の経験を語り、写真や動画、参考資料を活用することも大事だ。さらに、子ども達が外国を身近に感じ、自分と関わりがあるという思いを持つことがとても大事である。今回の実践では、日本の子ども達が折り紙を折って日本の文化を紹介するという動機付けを行う活動を取り入れた。そして、国際理解の視点はぐっと深まることを感じた。よって、そのようなアプローチも十分に考えることができる。日本の子ども達が外国のことをもっと身近に感じることができる工夫を、今後も考えて実践することが課題だと考える。また、地域社会において実施した写真展『ネパールとの出会い』のように、広く社会へ国際理解が広がるような活動を取り組んでいきたい。さらに、今後も実践したことを学会等で発表して、社会に発信したいと思う。

参考資料

『写真で学ぼう! 「地球の食卓」学習プラン10』、開発教育協会、2010年8月

『地球の歩き方 ネパールとヒマラヤトレッキング2016～2017』、ダイヤモンド・ビッグ社、2016年7月